

学長と学生との意見交換会【概要記録】

【日時】平成28年12月13日(火) 16時20分～17時45分

【場所】学生プラザ1F フリースペース(西側)

【テーマ】「広島大学をより良い大学にするために」

【学生出席者】24名

【大学関係出席者】越智学長, 宮谷理事・副学長(教育・東千田担当), 相田理事・副学長(大学改革担当), 江坂副学長(学生支援担当), 西谷副学長(国際交流担当), 小澤副理事(教育企画担当), 林副理事(教育企画担当),

題目	学生からの意見	本学の意見(意見交換会当日)	本学の対応(意見交換後)
学部生が私的に 行う海外留学の ための奨学金 設置を検討願 いたい	<p>昨年留学を試みたが金銭面の関係で行けませんでした。広島大学の留学に関係する奨学金を調べてみると、ほとんどがHUSAなど公的な留学にかけられる奨学金か、修士など学位取得を目的とした人のための奨学金しかありません。学部生が私的に海外留学で奨学金を取るためには、企業や海外の奨学金を取るしか方法がなく、今回留学を断念しました。「学部生が私的に海外留学のための奨学金」というのは検討できないでしょうか。</p>	<p>現在本学には、個人の私的な海外留学を支援するための奨学金は設けていません。 しかしながら、平成27年度から、「広島大学冠事業基金」を創設し、毎月5万円ずつ、企業や病院に寄附をお願いしており、外国人留学生の受入だけでなく、日本人学生の留学支援も行っています。この冠事業基金を基に、本学の公的な海外留学プログラムを充実していきたいと思っております。</p> <p>本学の学生が留学する際、一番のネックは英語能力だと思っています。 先日、カイロ大学のハニー農学部長の所を訪れ、5人ずつくらの交換留学をすることを決めてきましたが、日本人、広大生の英語運用能力が低いと危惧しています。 留学は、英語が話せなくても、行くことに意義があると思えますが、やはり長期間に渡る留学においては、十分な英語能力が必要となります。例えばオーストラリアに留学したいと希望があっても、英語運用能力の問題で振り落とされたりすると聞いています。学生の皆さんには、新たに導入した「MyET」などを活用して、英語能力を上げ、本学のHUSAプログラム等を活用した留学の機会を得てもらいたいと思っております。</p>	<p>平成28年度に導入した英語自己学習【MyET】については、以下URLをご確認ください：https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/information/topics/2016/12/trial_use_of_the_english_conversation_training_app.html</p>
ムスリム(イスラム教徒)の学生向けの礼拝用の部屋の設置について	<p>キャンパスの国際化が推進されていると思いますが、ムスリム(イスラム教徒)の学生向けに礼拝の部屋の設置などは可能でしょうか。</p>	<p>憲法上の信教の自由との関係で、「ムスリム用」とはしていませんが、全ての人が使うことができる礼拝用の部屋という形でIDECなど、全部で3箇所くらい作っています。ムスリムの方が必要な水のサプライなどもできるようになっています。</p>	
本学の組織改革の状況について	<p>広島大学の組織改革は、ここ数年の国立大学86法人の中での動向を見る限りかなり遅れていると感じます。本年度4月に教職大学院が設置されましたが、依然として学士課程の改革はありませんでした。 つきましては、既存学部の発展的解消や大学院のみの研究科に学士課程を設置することを提案したいと思っております。</p>	<p>本学が、現段階で目に見える、わかりやすい改革が少ないのは事実だと思います。しかしながら、現在既に新しい学部や学科を設置する準備を進めています。 また、広島大学は総合研究大学であるため、学部も大切ですが、大学院をいかに整備するかも非常に大切で、大学院の教育組織も、大きな目に見える改革の準備を進めています。 現在、本学のSGUIは、外部評価委員から評価して頂いていますが、本学の改革はどこにも負けないくらい進んでいるという評価を受けています。ついては、あまり改革が遅れているとは思わないで良いと思っております。</p>	

題目	学生からの意見	本学の意見(意見交換会当日)	本学の対応(意見交換後)
総合科学部の学問領域の重複について	総合科学部の学問領域の重複について大学はどのように考えているのでしょうか。	<p>大学として、教養教育をどのように分担し、支えていくかというのは、非常に大きな問題です。本学も、元々教養部であったものが総合科学部となり、教養の多くの部分を総合科学部が担ってきたという事実があります。領域の重複もありますし、所属の教員についても、教養教育、専門の授業並びに大学院を持つ必要があり、仕事の整理をする必要がありました。</p> <p>本学では、平成28年度から学術院を設置して、教員は全員学術院に所属することとしました。この学術院を中心に、教育並びに研究を全学的に進めていきます。</p>	
学生寮について	学生寮、特に女子寮が老朽化していますが、建て替えはあるのでしょうか。	<p>根本的な改修については、老朽度合に応じて、全学的に評価し、文科省に予算要求をしています。</p> <p>しかしながら、学生寮に対する予算が少ない現状もあるので、学内予算の中で、特に漏水など生活上安心・安全な環境を整えるための重要なところについては優先順位をつけて、少しずつ進めているところです。</p>	
平和学習について	平和学習を留学生と合同で実施するとより理解が深まると思いますが如何でしょうか。	<p>平和学習については、1年生用の平和科目がありますが、一方で留学生はその大部分が大学院生で、英語話者です。両者が合同で学習すると、例えば平和科目を全編英語にする必要があったり、留学生全員が日本語を話せないといけないなど、ミスマッチが起こる可能性があります。</p> <p>本学では、毎年夏にINU学生セミナー「地球市民と平和」を約1週間に渡って開催しています。このINU学生セミナーでは、海外のINU加盟大学の学生が広島に集まり、本学の日本人学生と一緒に英語によりディスカッションやワークショップ等を通じて「平和」や「Global Citizenship」について討議する機会を提供しています。</p>	<p>「平和学習」については、平成29年度から新たに2つの取り組みを実施します。</p> <p>1) 3+1プログラム学生に向けて、新規に平和科目を開設します。日本人学生の履修も認めています。</p> <p>2) 英語による、平和科目を2科目開設します。(Global Issues TowardsPeaceA/B)</p> <p>外国人留学生及び日本人学生が共に学ぶ機会を提供します。</p>
	INU学生セミナーには、英語や国際交流に興味がある学生しか参加しないと思います。普通の学生が、留学生と関わって、日本を別の視点から見るというのも大きな学びになると思います。 例えば原爆ドームの見学等を、英語のサポートをつけながら一緒に行くという授業があれば良いと思います。	<p>外国人留学生と日本人学生とが交流することは非常に大事で、様々な仕掛けづくりを考えています。例えば、学生寮を混住型にして、日本人学生と留学生とが一緒に暮らし、その中でいろいろな交流をしておうとしています。</p> <p>しかしながら、日本人学生が、外国人留学生との交流に対して少し躊躇するようなところがあるので、今後、意識改革もしながら交流を促進していき、広島の平和について共に学習できるような方向へ繋げたいと思います。</p>	
「学部・学科名」について	来年4月に理学部物理科学科が物理学科に変わります。これは「物理科学科」が分かりにくいから、「物理学科」というシンプルな名前に変わるのだと思います。これと同じように、分かりにくい学部・学科名を分かりやすくして欲しいです。	<p>学部・研究科・専攻の名前というのは、どういう活動をするのかを表現する、あるいは中にいる教員がこういう活動をするんだという意味で付けたい名前と、外の高校生や学生さんが分かりやすい名前との、両方の面から決まってくるのだと思います。学部・大学院の組織を考えるときには、中にいる大学の人達だけが分かる名前ではなく、そこに入ってくる外の学生さんにも分かりやすい名前がいいのではないかという議論をしています。こういう名前にしますという回答はできませんが、学部名や学科名は、以上のような議論等の上で付けられているということをご理解ください。</p>	

題目	学生からの意見	本学の意見(意見交換会当日)	本学の対応(意見交換後)
<p>学生の地域・社会活動等への支援等について</p>	<p>広大生の「下見完結型学生」を減らして欲しいです。広大生のうち、西条の下見地区で学生生活を完結している学生が、6割以上はいるのではないかと思います。西条で、大人と交流しながら活動したり、外国人留学生を様々な場所に連れて行ったりしている学生の活動を後押しするような仕組みを作って欲しいです。来年からなくなるCOCに代わる取組を既に計画されているとは思いますが、それを1年生全員に行かせて欲しいです。</p> <p>自分は西条ラバーズというサークルで活動していますが、結成のきっかけは、友人が総合科学部の教養科目「地域地理学」の授業で、酒蔵通りにフィールドワークに行ったことでした。そこで、「西条にはこんな所がある」「酒蔵通りにこんなおもしろい所がある」「学生が入っていくとこんなに歓迎してもらえる」と実感し、活動が始まりました。初めは「大学の単位を得るため」という義務・強制のような動機づけであっても、そこで地域活動の面白さを実感することで、その後の活動など外に繋がっていくのだと思います。</p> <p>地域・社会活動するうえで、交通手段がありません。車がないと活動が制約されるので、自由に使える車が欲しいです。志和や安芸津など、電車が通っていない地域に行く際、車がないと、自主活動が制約されます。</p>	<p>現在、必修化で、1年生からのインターンシップやボランティア体験等をスタートするという事を考えています。しかし、受入先の問題等検討すべき事項は種々あるため、実際に開始できるのは再来年ぐらいになるかと思っています。</p> <p>1年生からの社会体験を通じてやりがいを感じてもらい、且つネットワークが広がっていくことにより、それが自主的な地域・社会活動に繋がると考え、本学では他大学に先駆けて行おうと考えています。</p> <p>今危惧しているのは、広島市内に1回しか行ったことがない学生がいることです。その1回も、平和科目で強制的に原爆ドームに行っただけと聞いています。大学生というのは、大学の勉強だけではなく、地域と交流する、外国に行くなどの経験を通して社会や他者と触れ合うことにより、様々な考えや文化を知り、教養をつけるということが重要ではないかと思っています。</p> <p>3年生や4年生になって専門性の高いインターンシップを学ぶよりも、1年生の時に、「社会がどういうふうに動いているのか」を学ぶためのインターンシップを全員に受けてほしいと考えています。もちろん、受け入れ先が限られているので今すぐに、というわけにはいきませんが、教養教育の中にマスタアイテムとして入れたいと思っています。</p>	<p>本学では、東広島市内における学生の積極的な地域・社会活動を支援するため、平成29年4月以降の早い段階で、地域・社会活動を実施する際の交通手段として、タクシー利用支援を実施する予定です。現在、制度設計中ですので、詳細が決まり次第、案内します。</p>
<p>広島大学のSNSについて</p>	<p>広島大学のSNS登録者数は、スーパーグローバル大学タイプAの中で、Twitterが3位、Youtubeが6位、Facebookが8位となっています。Twitterは健闘していると思いますが、広島大学のアピールのために、FacebookとYoutubeの登録者数を増やして欲しいです。加えて、広島大学の新生や教職員に、登録を強く喚起して欲しいです。</p>	<p>情報を発信することは重要だと思っています。</p> <p>日本語だけでなく、英語・アラビア語・中国語のホームページを作るなど、世界から、広島大学が何をしているのかをわかてもらえるようにするという事をやっています。</p> <p>また、本学の主な研究や取組み等を、英語で作成し、教員から世界中の友人たちに発信してもらっています。このような方法を使って、世界にアピールしていくことが、世界中の広島大学におけるレピュテーションを上げていくことに繋がると思います。どのような形で喚起していくかは、今後検討したいと思います。</p>	<p>本学のSNSは、主に対外的情報発信を目的としており、学内は、学生対しては「もみじ」を、教職員に対しては「いろは」を活用して本学の情報を発信しています。</p> <p>しかしながら、「もみじ」や「いろは」に掲載しているだけでは、情報が行き渡らないこともあることから、最近では「学長メッセージ」を学生の「Myもみじ」や教職員の個人メールに発信することで、大学の最新の情報を全学的に広報しています。</p> <p>また、学外に対しては、オープンキャンパスの際や新聞広告、広島県の大学案内等様々な機会に、本学のHPやFacebook等URLを案内しています。</p>

題目	学生からの意見	本学の意見(意見交換会当日)	本学の対応(意見交換後)
<p>広島市内へのアクセスについて</p>	<p>広島市内へのアクセスについて、不便と感じている人がどれくらいいるかのアンケートを取って欲しいです。アンケートを取って、みんなが不便と感じているのであれば、グリーンフェニックスをノンストップバスにする、東広島駅を利用して早く広島駅に行けるようにする等検討してもらいたいです。</p> <p>また、広島市内へのアクセスが早くできるようにして、旧理学部1号館を改修し、東千田未来創生センターも利用して、教養の授業をそこでするのはどうでしょうか。</p>	<p>本学に交通結節点を作る話もあり、広島へのアクセスについては、学生にとってよりアクセスしやすい形になるように検討したいと思います。東広島だけで完結せず、広島も含めてという意味では、東千田キャンパスをどう利用するかは非常に重要だと思っています。</p> <p>なお、本学から、東広島市長へ、広島大学から空港や駅へのアクセスを改善してほしいという要望を直接お願いしています。</p> <p>すぐには実現できない理由としては、お金の問題もありますし、バスの便数を増やしても、乗客数が少ないと赤字になってしまうという問題もあります。</p> <p>可能であれば、東広島・霞・東千田キャンパスをローテーションするようなバスが30分おきくらいに出るようなバスがあればいいなと思っていますが、それを維持しようとすると、年間莫大なお金がかかることが分かっており、大学だけでは実現できません。</p> <p>特に東広島市には、大学と駅との間のバスの便を頻回にして欲しいこと、もう少し夜遅くまで走らせて欲しいことをお願いしています。</p> <p>新幹線についても、最終の「のぞみ」や「ひかり」が東広島駅に止まれないか、広島始発のものについても、東広島駅に止まってから、大阪・東京方面へ行くことができないかということ、JR西日本の社長にお願いしています。</p> <p>なかなか実現が難しかったり、時間がかかったりするとは思いますが、バスターミナル計画もあるので、もう少し利便性はよくなると思います。</p> <p>アンケートについては、ひとつの事実・エビデンスとして掴んでおくことはいいことだと思いますし、バスターミナルができた後にもう一度取れば、どれだけ利便性が上がったかということも分かるので、実施したいと思います。</p>	<p>広島市内へのアクセスの利便性について、学生がどのように感じているか、2月にMyもみじを通じてアンケート調査を実施しています。</p> <p>アンケート結果については、今後の計画の検討材料として、東広島市へ提出します。</p> <p>なお、グリーンフェニックスの直行便新設、深夜便追加及び本学学生を対象としたパスカードの導入については、東広島市へ既に要望しております。</p>
<p>大運動会について</p>	<p>フェニックスソフトボール・フェニックスリレーマラソンのように、体育会で「学部対抗広大春の大運動会」みたいなものの実現はできないでしょうか。</p>	<p>体育会というのは、元々は自分達のクラブを強くする目的で存在しています。ただ全学的な交流を、ということで、フェニックス駅伝(現在のフェニックスリレーマラソン)を始めましたが、あまりこれが過剰な負担になると、それぞれのクラブ活動が疎かになってしまうので、体育会としての活動はこれ以上できないと思っています。ただ、体育会以外の有志の方がボランティアで行うということであれば、大学としても応援したいと思います。</p>	

題目	学生からの意見	本学の意見(意見交換会当日)	本学の対応(意見交換後)
授業内容や授業改善アンケートについて	<p>コミュニケーションⅠAからⅢCまで、英語の授業を全て英語で実施して欲しい。また、アドバンスでやっているのと同様に、ベーシック外国語でも、その言葉で授業をすればいいと思います。</p> <p>また、授業の構成をもう少し考えていただきたいです。シラバスで目標を書かれているが、各回の授業がどのように目標に向かってアプローチしていくのかが分かりにくく、授業の目標の設定がされていない場合があります。</p> <p>例えば教職課程の授業で、現場の先生をお呼びして講義をいただく際に、附属学校の紹介をされるだけで、学生が何を学びとればいいのかを示されておらず、何を学べばいいのか分からないです。</p>	<p>担当の教員及び附属学校の教員に、今の意見を伝えます。ドイツ語など英語以外の言語については、初めて学ぶ学生に対していきなりその言語だけで授業するのは難しいかもしれませんが、外国語教育研究センターの先生とも話し合っていきたいと思います。英語については、少しアドバンスにしようと動き始めています。</p> <p>また、英会話に特化したルームではないですが、そういう部屋をできるだけ多くの部局に作ろうということで、今4つくらいは活動を始めています。そういうものが広がっていくように努力します。</p> <p>そして、今いただいた意見等を、ぜひ授業改善アンケートで書いてください。</p> <p>授業改善アンケートはみなさんに与えられた権利です。例えば今の話ですと、授業開始時にそういった細かな構造的なものを配ってほしいなど、アンケートで書いてください。</p> <p>シラバスの備考のところに、『授業改善アンケートによって改善したことがあればそれを記入してください』と教員にお願いしています。ぜひみなさんの声をアンケートで寄せていただければ、教員もコメントとして返していきますので、お願いします。</p>	
	<p>英語教育について、大学が考えている理想と学生の実態にギャップがあると感じていて、そこを埋める対策が必要だと感じています。</p> <p>学部1年生の時に授業があったり、TOEICがあったりしますが、受験勉強の流れのまま、勉強のために英語をやっている感じがしています。英語能力を伸ばすためにやる前に、まず、英語ができない状態でコミュニケーションを取らないといけない機会が先にあった方が、モチベーションになるので、モチベーションのない人の底上げをもっとした方がよいと思います。勉強の前に、留学生と、人としてのコミュニケーションを取る機会があって、でもそれができないから、「英語を勉強したい」と思う、という流れになるような仕組みがあったらいいなと思います。</p>	<p>英語が必要だと感じる状況を作ることは、非常に大切だと思います。</p> <p>「英語を勉強する」のではなく、「英語でいろんな活動をする」「英語で専門教育を受ける」ということでいろんな工夫をしている途中です。</p> <p>今年の1年生から、「英語到達期待値」という形で、毎年TOEICのスコアをどのように上げていくのかをグラフにしてもらっています。START1に参加する、そこで勉強するというのも一つのモチベーションになっているだろうと思います。同時に、過去10年間くらいの、各学部・学科ごとの成績の伸びをチェックしています。学部間の差や特性を考慮に入れながら、意欲のある学生の能力を伸ばしていけるようなプログラムにしていきたいと思っています。</p>	
	<p>授業改善アンケートが実際にどのように適用され、先生方にどのように影響しているのかが不明瞭なので、アンケート実施の際は、先生方にコメントいただければと思います。</p>	<p>教員には、授業改善アンケートのコメントには返してくださいと何度もお願いしています。これが、みなさんの行動をすごく変容させていき、それがお互いによりキャッチボールになってうまく生きていくようになると思います。</p> <p>ただ、実際には学生からの回答率が非常に低いので、我々も頑張りますが、みなさんが中心となって回答率を上げていただければと思います。</p>	

題目	学生からの意見	本学の意見(意見交換会当日)	本学の対応(意見交換後)
<p>チーム制における「15回目の授業」について</p>	<p>チーム制の実施状況について。1日2時間連続で講義を行う形で行っていますが、テスト前の最後の1時間である15回目の授業が実質意味をなしていない状況です。その状況について、何か方針のようなものはあるでしょうか。</p>	<p>基本的には15回目に試験をして、16回目に試験の解説をしてあげて欲しいとお願いしています。もしくは、15回目に少しまとめをして、16回目に試験をするという方法もあります。但し、15回目に新しいことを言って、16回目にそれを試験する、というのはまずいので、その点は配慮する必要があります。その点を配慮した上で、15回目、16回目の授業の活用はうまくしていただくよう、教員にはお願いしています。しかしながら、それがどの程度実施されているかの調査は行っていませんので、これからよりよくしていくために頑張りたいと思います。</p>	<p>既に2コマ連続で授業を開講している教員を対象に実施しているアンケート調査(実施するための工夫、改善した点など)の集計結果を全学で共有し、有効な取り組みを各授業担当教員に参考にさせていただくことや、授業改善に関するFDにおいて、既に2コマ連続授業を経験されている教員に講師となっただき、効果的な8週目の活用方法を共有するなど、セメスター科目からのチーム科目への移行推進とともに既存のチーム科目においても改善が図られるよう努めます。</p>
<p>学外者の構内立入について</p>	<p>現在、子育てされているお母さん方を大学に招いて、学生とお母さん方と交流をもらう活動を行っています。この活動について、ある先生から、学外の方が気軽に構内に入ることは危険であると言われました。大学構内に地域の方々を招待して問題ないでしょうか。</p>	<p>教育学部でも、小学校の先生になる人たちが、地域の方々や子供たち、年配の方々と交流するイベントを毎年行っています。そのため、外部の方を構内に入れることについてそれ自体が問題ということはありません。しかしながら、学外の方が来られる途中で事故に遭った場合、例えば仮に学生の車に乗っていた場合、どういった配慮をしていたのかということになります。そのため、どのような形で実施するのかを事前に相談いただくことが大事だと思います。加えて、カルトや悪徳商法などのグループが入ってきて、広大生に近づくということが時々ありますので、その点でも注意が必要だと思います。</p>	
<p>オリエンテーションについて</p>	<p>オリエンテーションキャンプでは飲酒の文化があったりして、学問を追及しようという雰囲気を感じることができないと感じます。自殺率が高い問題があって実施されていると聞きましたが、コミュニケーションが苦手な人は参加していないので、自殺防止にもつながっていないのではないかと感じます。学部内でやるのではなく、ボランティアなど、外に向けて、目的を持って集まっていく方が、学生同士の関係性を保つことができ、地域や外に向かっていく意識も生まれるのではないかと思います。</p>	<p>オリエンテーションキャンプは現在各学部にて任せていますが、ご指摘のとおりレクリエーション中心のものになっている傾向にあります。これについては、我々も危惧しているところで、もう少し実りあるオリエンテーションキャンプというものを考えていかないといけないと思っています。オリエンテーションキャンプを通じて先輩が後輩にサジェスチョンできたりする場にできれば良いと思います。飲酒の問題等もあるので、改善策を大学全体で、各学部と連携しながら考えていきます。ボランティアに関しては、先ほどもお話した通り、1年生全員を外に出したいと思っていますので、学生ボランティアのみならず、受け入れ先の紹介など、ご協力いただければありがたいです。</p>	<p>毎年度、新入生オリエンテーション・キャンプの実施状況を調査し取りまとめしています。調査項目へ得られた効果及び次年度に向けての改善点の欄を新たに設けることとし、調査結果を、各学部の自主性を重んじながら、次年度以降へ反映させてもらうよう依頼する予定です。加えて、毎年度実施している規範意識等に関する意見交換会で、テーマとして飲酒強要の問題を取り上げています。オリエンテーション・キャンプの場を含め、飲酒強要をなくすための対策を学生自ら提案することにより防止策としています。</p>